

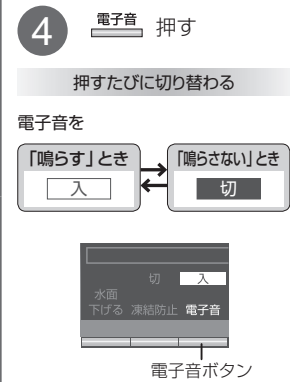
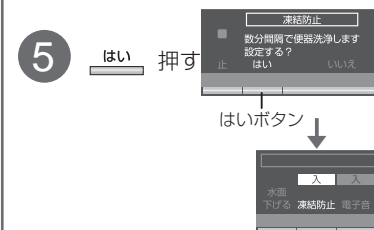
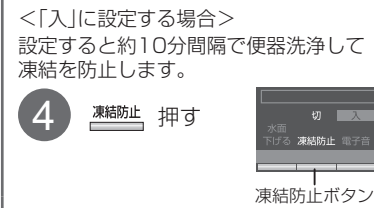
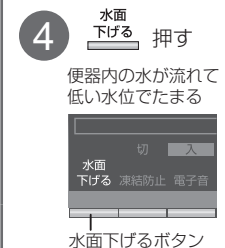
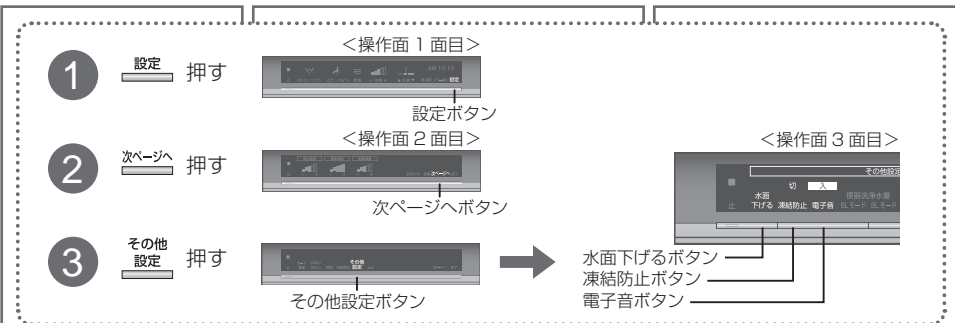
いろいろな使いかた

その他設定

便器の水たまり面を
下げる
(水の跳ね返り低減や
検便のときなど)
水面下げる

便器とウォシュレットの水を
一定の間隔で自動で流す
凍結防止

電子音を
鳴らす/鳴らさない
電子音



<設定完了>

お知らせ

- 検便時に使用する
ときは「オート便
器洗浄」を「切」に
してください。
(P.28)
- 便器洗浄すると、
通常の水面の高さ
に戻ります。
水面を下げて使い
たい場合に、都度
設定してください。

<設定完了>

<「切」に設定する場合>
凍結防止 を押して
「切」に設定してください。

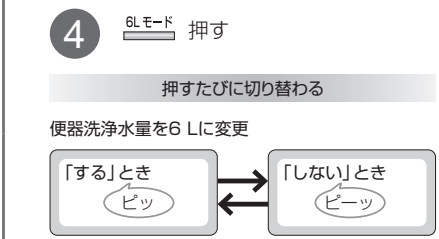
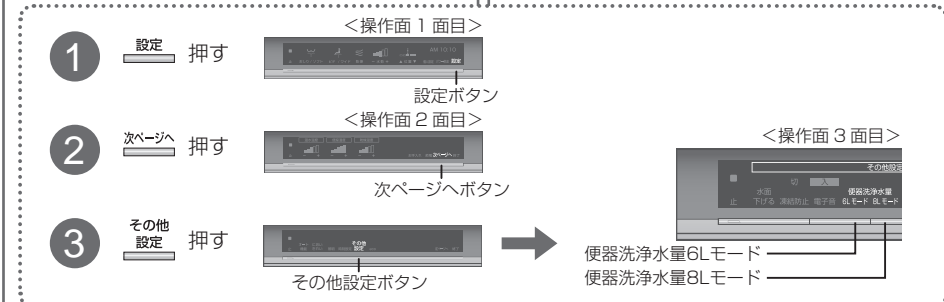
汚物が流れにくいとき
便器洗浄水量6Lモード

汚物が流れにくいとき
便器洗浄水量8Lモード

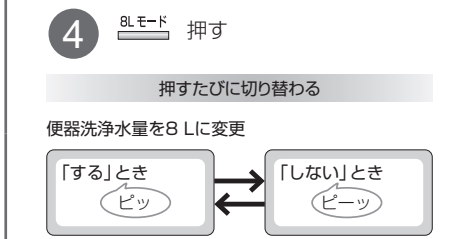
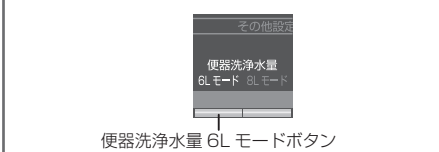
「故障かな?と思ったら」の「汚物がきれいに流れない」(P.59、60)の内容をご確認のうえ、必要な場合のみ設定を行ってください。

「便器洗浄水量8Lモード」に設定している場合は、
8Lモードの設定を解除してから行ってください。

「便器洗浄水量6Lモード」に設定している場合は、
6Lモードの設定を解除してから行ってください。



床排水の場合は洗浄水量が、
大 3.8 L / 小 3.0 L
→大 6.0 L / 小 5.0 L になります。
(壁排水の場合は、大 4.8 L / 小 3.4 L
→大 6.0 L / 小 5.0 L になります。)



床排水の場合は洗浄水量が、
大 3.8 L / 小 3.0 L
→大 8.0 L / 小 6.0 L になります。
(壁排水の場合は、大 4.8 L / 小 3.4 L
→大 8.0 L / 小 6.0 L になります。)



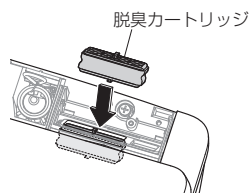
使いかた

こんなときは

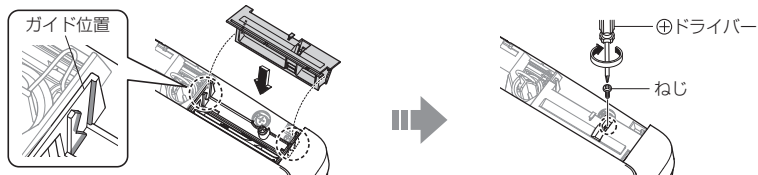
脱臭が弱くなったとき(つづき)

5 新しい脱臭カートリッジを取り付ける

- ・確実に奥まで押し込む

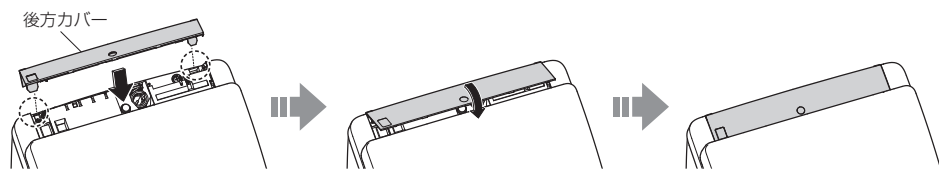


6 カバーを取り付ける



- ・ガイド位置に合わせて取り付ける

7 後方カバーを取り付ける



8 電源プラグを差し込む

- ・「運転」ランプが点灯する

凍結予防をするとき

外気温が0℃以下になるときは、凍結予防を行ってください。

- ・便器の種類によって凍結予防のしかたが異なります。便器の種類に合わせて、作業してください。

お願い

- ・外気温が0℃以下になるときは、節電しないでください。(製品が破損するおそれ)
- ・周囲の温度が0℃以下にならないよう、トイレ内を暖めるか、凍結予防を行ってください。
- ・作業前に、「オート便器洗浄」(P.28)「オートふた開閉」(P.30)を「切」にしてください。

流動方式(ヒーター付便器・水抜併用方式以外)

便器とウォシュレットの水を、一定の間隔で自動で流して、凍結を予防する方法です。

■設定のしかた(P.36)

- ・リモコンで「凍結防止」を「入」にしてください。

凍結防止中は、次のように作動します。

- ・「運転」ランプが点滅する
- ・約10分間隔で便器洗浄(約4.8L)する
- ・約50mlの水が約5分間隔でノズル付近から出る(ノズルは収納したまま)



ヒーター付便器・水抜併用方式

1 水抜栓を操作して、給水を止める

お願い

- ・止水栓は開けたままにしておいてください。(製品内部の水が抜けずに凍結破損するおそれ)



2 押す

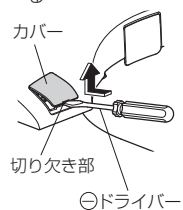
- ・給水管の圧抜き

3 電源プラグを抜く

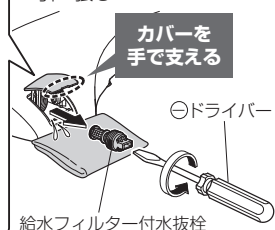
4 配管の水を抜く

- ①便座・便ふたを開ける

②カバーの切り欠き部に⊖ドライバーを差し込んで開ける

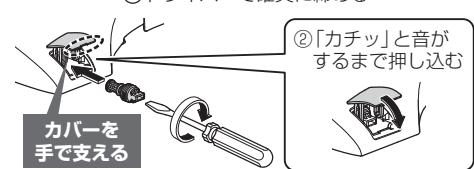


③給水フィルター付水抜栓を⊖ドライバーでゆるめて、引っ張る



5 給水フィルター付水抜栓を取り付け、カバーを閉める

- ①給水フィルター付水抜栓を押し込み、⊖ドライバーで確実に締める



6 電源プラグを差し込む

- ・「運転」ランプが点灯する

7 流す大 を押してタンクの水を抜く※1

8 便座温度を「高」にする(P.20、21)

- ・保温のため、作業後は便座・便ふたを閉めておく

- 再度ウォシュレットをお使いになるときは
・再通水が必要です。(P.56)

お知らせ

- ・ヒーター付便器は室温が5℃以下になると自動でヒーターが入ります。
- ・凍結のおそれがないときは、ヒーター付便器の電源プラグを抜いておいてください。

※1 「便ふた閉止後洗浄モード」を「入」に設定しているとき、便ふたが閉まったあと便器洗浄します。

こんなときは

長期間使わないとき

別荘などのトイレを長期間使わないときは、水抜きをしてください。

(タンク内の水が腐敗して皮膚の炎症などをおこす原因) (凍結して製品破損などをおこす原因)

お願い ・凍結の恐れがあるときは、凍結予防を行ってください。(P.55) (製品が破損する恐れ)

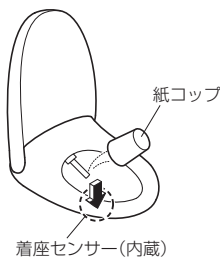
ご注意 ・「お掃除リフト」(P.45) で本体が上がった状態での水抜きはしないでください。

水抜きのしかた

- 1 ■流動方式(ヒーター付便器・水抜併用方式以外)のとき
止水栓カバーを取りはずし、止水栓または元栓を閉める(P.4)
 - 2 ■ヒーター付便器・水抜併用方式のとき
水抜栓を操作して、給水を止める(P.55手順①)
 - 3 **お願い** ・止水栓は開けたままにしておいてください。
 - 4 **押し** (給水管の圧抜き)
 - 5 電源プラグを抜く
 - 6 配管の水を抜く(P.55手順④⑤)
- 凍結のおそれがあるときは
・便器のたまり水(封水)に不凍液を入れるなどして凍結しないようにしてください。(不凍液はそのまま流さず、使用前に回収し、廃棄処分してください。)
- 再度ウォシュレットをお使いになるときは
・再通水が必要です。(下記)

再通水のしかた

- 1 止水栓カバーを取りはずし、止水栓または元栓を開ける(P.12) または、水抜栓を操作して、給水する
・配管やウォシュレット本体から水漏れしていないことを確認する
- 2 止水栓カバーを取り付ける
- 3 電源プラグを抜いているときは
電源プラグをコンセントに差し込む
・「運転」ランプが点灯する
- 4 ①ノズルから水を出す
(1)手または腕で着座センサー部(詳細はP.8を参照)に触れたまま、
(2)リモコンの「おしり」ボタンを押して、ノズルから水を出す
・水は紙コップなどで受けてください。
(3)手または腕を着座センサー部からはずす
② **押し** ※1
・タンクに水がたまっていないときは、便器洗浄できません。その間はすべての操作をしないでください。(タンク給水中は、本体表示部のランプが点滅し、給水が完了すると点灯に変わります。) 給水完了まで80秒程度かかります。(給水圧などの使用条件によって左右されます。)
- 5 便器に水がたまってから、もう一度 **押し** ※1



故障かな?と思ったら

まず、P.57~65の処置方法をお試しください。

それでも直らないときは、お求めの取付店・販売店またはTOTO メンテナンス(株) 修理受付センターにご相談ください。

次の場合は電源プラグを抜いて、TOTO メンテナンス(株) 修理受付センターへ連絡してください。

●運転、便座、節電ランプが点滅している



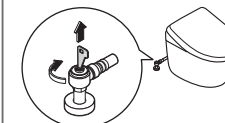
●電子音が止まらない

●便座ランプが点滅している



注意

! 水漏れが起きたら、止水栓を閉める

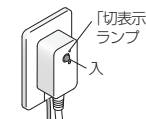


まず、ご確認ください

運転ランプが点灯していますか?

■電源プラグの切表示ランプが点灯していませんか?

→「入」ボタンを押す(ランプ消灯)



■「運転」ランプが点滅していませんか?

→「凍結防止」設定が「入」になっています。(P.36、55)



■配電盤のブレーカーが入っていますか?

→停電したり、ブレーカーが「切」になっていないか確認する

節電ランプが点灯していませんか?

■点灯中は節電中(P.22~25)のため、便座ヒーターが切れていることがあります。

リモコンで動きますか?

■リモコン液晶画面の表示がすべて消えていますか?

→リモコンの電源プラグが差し込まれているか確認する



■本体やリモコンの近くに金属物を置いていませんか?
→金属物を移動してください。

■リモコン液晶画面に「リモコンの設定が必要です。お取付店にご連絡ください。」と表示していますか?
→設定がされていません。お取付工事店にご連絡ください。

必要なとき

*1 「便ふた閉止後洗浄モード」を「入」に設定しているとき、便ふたが閉まったあと便器洗浄します。